

info DRIVE ジャマガジン

Jamagazine

Japan Automobile

Manufacturers Association

日本自動車工業会 広報誌

JAMA vol.52
2018
[December]

12 月号

2018
モータースポーツ／ファン感謝イベント

自工会企画WG 「バリアフリー調査会」を実施

大学キャンパス出張授業2018

オートカラーアワード2018



JAMA

一般社団法人 日本自動車工業会

2019年1月ー2月自動車関連イベント

 は四輪レース



国内主要イベント

日時	場所	名称
1月 11-13日	千葉県 幕張メッセ	東京オートサロン2019
16-18日	東京都 東京ビッグサイト	第11回オートモーティブワールド
1月30日-2月1日	東京都 東京ビッグサイト	nano tech 2019 第18回国際ナノテクノロジー総合展・技術会議

海外モーターショー/主要イベント

日時	場所	名称
1月 8-11日	アメリカ ラスベガス	CES2019
10-13日	オーストリア ウィーン	ウィーン・オートショー2019
12-27日	アメリカ デトロイト	デトロイト・モーターショー
16-19日	オーストリア ザルツブルク	AutoZum Salzburg2019
18-27日	カナダ モントリオール	モントリオール オートショー

海外モータースポーツ

日時	場所	名称
1月 12日	モロッコ マラケシュ	 FORMULA-E マラケシュE-PRIX
26日	チリ サンチアゴ	 FORMULA-E サンチアゴE-PRIX

JAMAGAZINE 2018年 12月号

発行日 平成30年12月27日
発行人 一般社団法人 日本自動車工業会
発行所 一般社団法人 日本自動車工業会
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
広報室・電話番号 03(5405)6119

©禁無断転載：一般社団法人 日本自動車工業会



1 2018 モータースポーツ/ファン感謝イベント
2 自工会企画WG 「バリアフリー調査会」を実施
3 4 大学キャンパス出張授業2018
5 「オートカラーアワード2018」

02

特集

2018 モータースポーツ/ファン感謝イベント

06

自工会企画WG 「バリアフリー調査会」を実施

08

東京2020オリンピック・ パラリンピック競技大会に 向けた取り組み 未来に引き継ぐ為に 第2弾

10

大学キャンパス出張授業2018

12

オートカラーアワード2018

14

第77回全国産業安全衛生大会

16

TOKYO AUTO SALON 2019 開催概要

17

記者の窓

「生活必需品か、贅沢品か」 北海道新聞社 拝原 稔

●JAMAGAZINEは自工会WEBサイトからもご覧いただけます

[www.jama.or.jp/lib/
jamagazine/index.html](http://www.jama.or.jp/lib/jamagazine/index.html)



今年を締めくくくるファン感謝祭 トヨタ、日産、ホンダ、マツダが開催

2018年のモータースポーツシーンを締めくくくる自動車メーカーによるファン感謝イベントが11月末、12月初旬にかけて行われました。今シーズンのレース活動を応援してくれたファンに感謝の気持ちを示すもので、国内外のレースカテゴリーで活躍した最新マシンやドライバーが集結。モータースポーツ活動の歴史を彩る往年の名車も登場し、デモンストレーション走行やマシン展示、サイン会、同乗体験など様々なプログラムを行い、ファンを楽しませました。トヨタ・マツダはル・マン24時間耐久レースの優勝マシン、ニッサンモータースポーツインターナショナル(ニスモ)はフォーミュラE参戦車、ホンは最新のF1マシンを持ち込み、デモ走行を実施。来シーズンに向けてさらなる活躍をファンに誓いました。



大型バスからレーシングカーを見ることが出来る「サーキットサファリ」



前に豪快な走りを見せる

タガズーレーシングフェスティバル



豊田章男社長(後列中央)もレーシングスーツに身を包みフェスを盛り上げた



ミニカーづくりはプレス作業からものづくりの工程を楽しく体験



からはダカールがデモラン

様々なカテゴリーが一堂に揃う

トヨタガズレーシングフェスティバル

トヨタ自動車によるモータースポーツファン感謝イベント「トヨタガズレーシングフェスティバル」が11月25日、富士スピードウェイ(静岡県小山町)で行われました。1年間のモータースポーツ活動への応援に対し感謝の意を伝えるとともに、あらためて国内外で参戦するモータースポーツ活動をより多くのユーザーに知ってもらうことを目的として、例年シーズンオフに開催しているイベントです。

当日は昨年を上回る4万3000人が訪れるなど、回を追うごとにファン層が拡大しています。イベントでは、レースやラリーなど様々なカテゴリーに参加するマシンとドライバーが一同に会し、普段は目にする事が出来ないシーンを演出したほか、同乗走行体験や、子どもたちが楽しめる参加型プログラムも用意されました。

豊田社長も登場

ウエルカムセレモニーに登場した豊田章男社長は来場者への感謝を述べ

るとともに「皆さんがもうとクルマ好きになって頂けるよう、おもてなしをさせていただきます」と宣言しフェスティバルが幕を開けました。レースングコース上では、今シーズンの世界ラリー選手権(WRC)でマニファクチャラーズタイトルを獲得した「ヤリスWRC」をはじめ、ルマン24時間耐久レースで念願の初優勝を飾った「TS050ハイブリッド」、ニブルクリンク24時間レース参戦マシンなど世界で活躍するレースマシンの迫力ある走りが披露されました。また、レーシングコースを大型バスで走行しながらレーシングマシンを眺めることが出来る「サーキットサファリ」などユニークなイベントも行われました。

子どもたちが参加できるイベントも盛りだくさんでした。「サーキットお仕事体験」ではアナウンサーやサインボード交換などレース運営を体験したほか、プレス作業から始める「ミニカーづくり」、タイヤ着脱体験が行える「子供メカ体験」、小学生向けの「親子バイク体験」など、モータースポーツだけでなく、「見て、参加して」楽しめる貴重な一日となりました。

日系メーカーとして初参戦するフォーミュラEマシンがデモ走行を披露



グループCカーとGTマシンの共演も



4万3000人のファンを「キャリズWRC」



ニスモフェスティバル



日産のモータースポーツ活動は今年60周年を迎えた



日産モータースポーツの歴史はGT-Rとともにある



レースで使用したパーツが購入できる「ガレージセール」



グループの日野自動車ラリー仕様のレンジャー

日産ならではのEV隊列を披露

「リーフ」「ニスモRC」を

「ニスモフェスティバル」にその勇姿を披露しました。フォーミュラEマシンの特徴はエンジン音がしないこと。それだけに空気を切り裂く風切り音と車輪と路面の摩擦によって生じるスキル音が強調され、「NISSAN INTE

初。今月15日に開幕した2018/19年シーズンを前に日本のファンにその勇姿を披露しました。

「リーフ」「ニスモRC」を

「ニスモフェスティバル」にその勇姿を披露しました。

「ニスモフェスティバル」にその勇姿を披露しました。

「ニスモフェスティバル」にその勇姿を披露しました。

「ニスモフェスティバル」にその勇姿を披露しました。

「ニスモフェスティバル」にその勇姿を披露しました。

「ニスモフェスティバル」にその勇姿を披露しました。

「ニスモフェスティバル」にその勇姿を披露しました。

も楽しめるイベントとなりました。

「ニスモフェスティバル」にその勇姿を披露しました。

「ニスモフェスティバル」にその勇姿を披露しました。

「ニスモフェスティバル」にその勇姿を披露しました。

「ニスモフェスティバル」にその勇姿を披露しました。

「ニスモフェスティバル」にその勇姿を披露しました。

「ニスモフェスティバル」にその勇姿を披露しました。

「ニスモフェスティバル」にその勇姿を披露しました。

「ニスモフェスティバル」にその勇姿を披露しました。

「ニスモフェスティバル」にその勇姿を披露しました。

「ニスモフェスティバル」にその勇姿を披露しました。

現役F1ドライバーによる現役F1マシンの走行は10年ぶり



「マクラーレンホンダMP4/6」「RA301」もデモ走行を行った



ホンダレーシングサンクスデー2018



ライダー人生の中で18年間ホンダと歩んだダニ・ペドロサ選手には、ホンダの八郷隆弘社長と葉田哲弘HRCレース運営室長から「ホンダRC212V」「RS250RW」が贈呈された



グランドスタンド裏では子供たちがミニ四駆作りを楽しんだ



市販車の展示、体験コーナーも設けられた

現役F1マシンが初デモ走行

■ホンダレーシングサンクスデー

Hondaは12月9日、ツインリンクもてぎ栃木県茂木町でモータースポーツファン感謝イベント「ホンダレーシングサンクスデー2018」を開催しました。今シーズンのモータースポーツ活動を締めくくるラストイベントで、今年も現役F1マシン「トロロッソ・ホンダSTR13」が初めてデモ走行を行ったほか、モトGPのチャンピオンマシン「RC213V」、スーパーGT、スーパーフォーミュラ、トリアルなど様々なカテゴリーのマシンがその走りを披露。元F1チャンピオンで今シーズンのスーパーGTでチャンピオンを獲得したジェンソン・バトン選手も参加し、ファンとの交流を楽しみました。

■四輪、二輪の両方で

同イベントは四輪二輪の両方でモータースポーツ活動に取り組むHondaならではのプログラムが数多く組み込まれているのが特徴です。今年も10年ぶりに現役のF1マシンがツインリンクもてぎを走行。ピエールガスリー選手がHondaのバ

ワーユニットサウンドを響かせながら走行しました。

また、ともに世界最高峰で戦ったモトGPとの共演も実現しました。今シーズンで現役を引退したダニ・ペドロサ選手によるラストランも行われ、Hondaとともに18年間戦った勇姿を披露しました。

例年ファンが楽しみにしているのが往年のF1マシンによるデモ走行です。第一期F1活動を戦った1968年の「RA301」やV12エンジンを搭載した1991年の「マクラーレンホンダMP4/6」が登場しました。

会場ではプロドライバーが運転する「NSX」「シビックタイプR」への同乗、昨年のインディ500優勝マシン、GTカーの cockpitピットに乗り込める体験イベントも実施。GTマシンが走る中をバスに乗って見学するサーキットサファリ、ドライバーや監督によるトークショー、サイン会なども行われ、来場した約2万5千人のファンはHondaレーシングの魅力を存分に満喫しました。

メーカー主催のブースには親子で楽しめるクイズを用意

このマシン目当ての来場者も多いマツダ787B



マツダファンフェスタ2018



2日で6711人の来場者が訪れた



イベント内で行われたレースの表彰式



開会式にはマツダOBや現役から往年のレーサーが勢ぞろい

マツダ車オーナーやその家族に囲まれ

■ものづくりの考え方も体感
マツダファンフェスタは、12年に

の家族に親しまれています。

ユーザーまで、幅広く楽しめるイベントとしてマツダ車オーナーやその家族に親しまれています。

■マツダファンフェスタ

「マツダファンフェスタ2018 in OKAYAMA」が11月24、25日に岡山国際サーキット（岡山県美作市）で開かれました。今年で7回目を迎えた今回は707台のマツダ車がサーキットを走行したなか、6711人がこのイベントに参加しました。2016年から2日間開催しており、サーキット走行を楽しみたいユーザーから、初めてマツダ車に乗るといったライトユーザーまで、幅広く楽しめるイベントとしてマツダ車オーナーやその家族に親しまれています。



子どもと一緒に出かけられることを想定した車両の展示も

マツダファンフェスタは、12年に

「マツダファンフェスタ2018 in OKAYAMA」が11月24、25日に岡山国際サーキット（岡山県美作市）で開かれました。今年で7回目を迎えた今回は707台のマツダ車がサーキットを走行したなか、6711人がこのイベントに参加しました。2016年から2日間開催しており、サーキット走行を楽しみたいユーザーから、初めてマツダ車に乗るといったライトユーザーまで、幅広く楽しめるイベントとしてマツダ車オーナーやその家族に親しまれています。

コース上では1991年のルマン24時間レース優勝車両の「MAZDA 787B」をはじめとする歴代レーシングカーやレジエントマシンのデモラン、約170台が参加した「全マツダ車オーナーズクラブ連合 サークिट・パレードラン」、「マツダファン・エンデュランス（マツ耐）」、「エイトリアンカップ」など数多くのイベントが催されました。

岡山でオーナー主体の参加型イベントとしてスタートしました。マツダの歴史や走る楽しさを感じてもらいたいと、メーカーも協賛という形で協力しています。イベントにはマツダ社員の約120人が参加し、社員がレースに参戦したり、マツダのものづくりの考え方を体感できるイベントとして、ミニコースに設けたマツダブース「Be a driver. Experience Zone」も用意。コアなファンだけでなく、新たなマツダオーナーや親子が楽しめる企画として、レストア車の展示やキッズ整備体験、人馬一体体験試乗などのブランド体験イベントを用意しました。



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、すべての人々の「移動の自由」「交通事故ゼロ」を掲げ、自工会は安全、快適で持続可能なモビリティ社会の実現に取り組んでいます。特に高齢者や障がい者の方の「移動の自由」に貢献すべく、2020年に自工会は臨海副都心エリア(東京都江東区)で自動運転実証を企画しており、ハードレガシーと併せ、ソフトレガシー活動の一環として、自工会企画ワーキンググループは同エリアで「バリアフリー調査会」を実施、バリアフリーマップ作成のための実態調査を行いました。

「心のバリアフリー」 推進のために バリアフリーの実態把握

■バリアフリーの実態調査

企画WGのメンバー27人が参加して、臨海副都心エリアの実証発着エリアを8班に分かれて全長20.4キロメートルを調査。専用タブレットに担当地区の状況、詳細を入力しながら、エリア全域の実態把握を完了。各班4〜5人のメンバーは、担当エリアに車いす1台とシステム化された情報専用タブレットを使用し、車いすでの移動体験や計測、目視をもとに、歩道や公衆施設など地域情報の詳細を各種アイコンや写真撮影などで入力しました。

調査後の振り返りでは、各班が調査で得た気付きや感想を発表。最も多かったのが車いすでの横断歩道と車路の段差で、新宿など都内他地区に比べ、お台場周辺は比較的バリアフリー整備がなされている印象がありますが、「場所によって2cmの段差や5%の傾斜でも乗り越えるのに苦労した」や、「音声のない横断歩道の信号機が多かった」などの声もありました。また、「心のバリアフリー」の面では「あらゆる人の移動の自由に対して、こうした活動を広げていきたい」「困っている障がい者の方などに積極的な声がけも必要だと感じた」など体験を通して意識づけも深めました。

■環境づくりに貢献

多くの方の移動に貢献できればと考えております。

企画WGでは、東京オリンピックパラリンピック大会のソフトレガシー創出に向け、「心のバリアフリー」に根差した活動を引き続き実施していく予定です。

バリアフリー調査会 各委員からの感想

三菱自動車 総務渉外部

大沼伸子氏

自分で車いすを体験してみると臨海副都心は歩道の幅もあり動きやすいけれど、都心では幅の狭い歩道も多く、車いすに乗る人を補助する人は大変だと思いました。今回の調査では新しい発見がたくさんあったので、是非多くの方にも体験して頂きたいです。

三菱ふそうトラック・バス 企業渉外・環境部

福島由子氏

今回健常者と障がい者の方の負担の違いを知るいい経験になりました。我々が普通に歩いている道の段差や横断歩道等が障がい者の方に負担となっている事がよくわかりました。車いすで移動する経験を通して、道や施設のハード面及び一言声を掛ける等障がい者の方への配慮が真のバリアフリーにつながることを感じました。

ヤマハ発動機 渉外部

池永譲治氏

初めて車いすに乗車、健常者には分からない「バリア」が多数存在していることが実感できました。特に交差点でのちょっとした勾配やたった2センチの段差が、大きな害になることに気づくことができました。今後、今までとは違った視点で車いすを利用されている方々を見守るよう心掛けていきたいと思えます。

UDトラックス 渉外部

横山直紀氏

お台場周辺の調査でしたが、普段は気にならない段差や傾斜など「バリア」が多くあることに気づかされました。また、実際に車いすを使用した走行では目線の低さや傾斜の影響を実感することができ、改めて共生社会を考える良い機会となりました。

調査活動
協力

NTTデータ

齊藤敦氏

会場に集まったときには不安を口にされていた皆さまが、すぐに興味を持って調査を自ら進めていかれる姿がとても印象的でした。今後も車いす体験や歩道調査を通じて『知ってもらう機会』づくりを通して『心のバリアフリー』を展開していきたいと思います。



●バリアフリー調査

車いす利用者・高齢者などの移動を安全・便利にするために、ナビゲーションに必要な、段差や階段などのルート関連情報を収集。

〈調査項目〉

幅員	「～1m」「1m～2m」「2m以上」の確認
傾斜	タブレットを路面において、傾斜を計測
段差	2cm以上の段差の有無の確認

※車止めポールなど

駅出入口	駅の出入口の設備状況の確認
車道を横断する歩道	信号の有無、音声信号の有無を確認

トイレ	「みんなのトイレ」「車いす対応トイレ」を対象に外観の写真と、トイレ設備が分かる写真を撮影
-----	--

その他	案内板(インフォメーション)、階段スロープ、路上駐車場、目視で通れる通路 物理的な分離 点字ブロック
-----	---

※NTTデータ NTTデータ経営研究所 バリアフリー調査会資料から

●2020年に自動運転実証を公開

自工会は「世界で最も安全、効率的で自由なモビリティ社会」の実現に向けて、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの前の7月6日(月)～12日(日)に、自動運転実証を公開します。

自工会加盟会社10社(計約80台)が参画、試乗イベントも開催予定です。

期間 2020年7月6日(月)～12日(日)7日間

開催エリア 羽田空港地域、羽田-臨海副都心～都心部、臨海副都心地域

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取り組み

未来に引き継ぐ為に 第2弾

自工会会員企業がレガシーの形成に向け、スポーツ支援やバリアフリーの活動を展開

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の成功と将来につながるレガシーの形成に向け、自工会・会員企業14社は各地で子供たちや障がい者の方々に、スポーツや地域イベントへの参加、普及活動を行っています。2017年12月号で、会員企業による地域密着の活動を一部紹介しましたが、今回の第2弾は昨年後半から今年にかけて実施した主な活動を紹介します。経済界協議会の「Toward & Beyond 2020」を合言葉に、自動車メーカー 14社は会社の枠を超え、業界一丸となってスポーツの振興、バリアフリー社会の実現に取り組んでいます。

Toward
&
Beyond
2020

オールジャパンで創る
未来のためのレガシー

自工会 オリピック 検索

URL <http://www.jama.or.jp/tokyo2020/>

くり2018



いすゞ自動車

日時 5月19日(土)
場所 山梨県南都留郡鳴沢村宇富士山8545-1 標高約1,600m地点(山梨県県有林)
主催 いすゞ自動車株式会社コーポレートコミュニケーション部
来場者数 87人

市民駅伝競走大会



三菱自動車工業

日時 1月21日(日)
場所 岡崎中央総合公園を中心とした岡崎市
主催 岡崎市民駅伝競走大会実行委員会
来場者数 1万人(沿道での応援含む)

優勝チーム 野球教室

SUBARU

日時 2017年10月1日(日)
場所 群馬県太田市 株式会社SUBARU矢島グラウンド
主催 SUBARU 野球部
来場者数 65人



平成29年度「はじめてのタグラグビー教室」

ヤマハ発動機

日時 2017年5月31日(水)、6月23日(金)、9月1日(金)、9月4日(月)
場所 袋井市立浅羽北小学校、袋井市立袋井西小学校、磐田市立富士見小学校
主催 ヤマハ発動機スポーツ振興財団
来場者数 284人





「パジェロの森」活動



三菱自動車工業

日時 9月15日(土)~16日(日)
 場所 山梨県早川町
 主催 三菱自動車工業株式会社、
 オイスカ、山梨県早川町
 来場者数 50人

富士山の森づく



伊豆の国市 駅伝大会



ススキ

日時 1月28日(日)
 場所 静岡県伊豆の国市 葦山
 時代劇場
 主催 伊豆の国市、市教育委員
 会、市体育協会
 来場者数 400人

第69回 岡崎



日本自動車会館 1Fくるまプラザ オリンピック・パラリンピック展示



日時 2017年12月11日(月)
 場所 日本自動車会館 東京都
 港区芝大門1-1-30
 写真掲載は3月末で終了

2017年スバルカップ



メーカートップ 自らクルマの 魅力を語る



自工会では、大学生に自動車産業やものづくりの魅力を語る「大学キャンパス出張授業」を開催しています。若者のクルマ離れが指摘される中、車に対する興味を高めること自動車産業、ものづくりへの理解促進を目的に、自動車メーカーのトップ自らが魅力を語ることで、自動車産業に対する理解を深めてもらうことを目指しています。2013年から毎年開催しており、今年で6年目を迎え、これまで2万人を超える学生が受講するなどその効果は着実に広がりを見せています。さらに今回は豊田章男会長やサプライズゲストによるスペシャルトークショーなど新たな試みも実施し、学生のみならずあらゆる世代から高い注目を集めました。(詳しくは10月号でご紹介しておりますのでそちらをご覧ください)



10月19日
工業株式会社
取締役会長
井正則



ホンダ
ホンダの八郷社長は自身の車づくりの経験を通じて学生らに夢の持つ大切さを語りました



日野
日野の遠藤副社長は東京都市大学で講演を実施。会場にはダブルラリアー仕様の「レンジャー」を展示し、学生の注目を集めました



ヤマハ
名古屋工業大学で行われたヤマハの講演では、東京モーターショー2017年に出品した「MOTOROID」が登場し、学生の関心を集めました

■出張授業の意義

自工会では、若者にもっとクルマの魅力を伝え、クルマに対する興味を高めようと様々な取り組みを展開しています。大学キャンパス出張授業もその一環で、若者へ自動車産業の魅力を伝える中心的な活動と位置付けています。自動車メーカーのトップクラスが自ら各地の大学キャンパスへ出向き、若者の生の声に耳を傾けながら、クルマやものづくりの魅力を楽しく語っています。

■今年のトピックス

ホンダの八郷隆弘社長からは、「Hondaのものづくりの原点」に「Hondaを購入してくれるお客様をはじめ、世界中にいるHonda従業員、Hondaに携わる全ての人々の喜びにつながるものを提供していきたい」という想いに「将来のHondaのありたい姿」が語られました。

また、出張授業の特徴が、講師と学生の対話を重視している点です。

ダイハツ工業の三井正則会

長には「低価格で安心安全な車を製造するために取り組むこと」、マツダの工藤秀俊執行役員には「熱効率やロータリーエンジンの改善」など学生から質問が出るなどメディア顔負けの鋭い質問が相次ぎました。

講演のみならず、各社車両展示等を行い、実際に見て、触れてもらうことで、クルマ・バイクの魅力や楽しさや日本のものでづくりの重要性もアピールしました。

SUBARUでは、アイサイトを体験する試乗会や、ヤマハ発動機では、東京モーターショー2017に出展した「MOTOROIRD」をステージに上げ、自律するモーターサイクルを紹介。このマシンは人工知能（AI）によって人の顔や動作を認識して立ち上がり、ライダーのもとへやってきます。

このような自動車の最新技術を実車で見る・体験することで、学生により実感覚として、ものづくりの魅力に触れてもらう機会となりました。



マツダ
マツダの工藤執行役員は東京理科大学でマツダ独自の環境技術を解説しました



ダイハツ
立命館大学のびわこくさつキャンパスで講演したダイハツ工業の三井会長



SUBARU
SUBARUの中村社長は母校の慶応大学で講演を実施。名車「SUBARU360」などを展示し、高い関心を集めました





「N-VAN」開発メンバーは笑顔で受賞を喜んだ



特別賞を受賞した「JPN TAXI」開発メンバー

特別賞
グランプリ
ホンダ「N-VAN」
トヨタ「JPN TAXI」

日本流行色協会（JAFCA）は12月7、8日に横浜美術館（横浜市西区）で、「オートカラーアワード2018」を開催しました。オートカラーアワードは自動車業界のなかで特に優れていると思われるカラーデザインを表彰するものです。21回目となる今回は22台13デザインの中からホンダの「N-VAN」がグランプリを、トヨタ自動車の「JPN TAXI」が特別賞を受賞しました。このほかにも優れたデザインがノミネートされており、審査員からは「審査が難しい」という声があがるほどハイレベルなコンテストでした。

■優れた企画・発想

オートカラーアワードは当初自動車のカラーデザインを評価する制度でしたが、17回目からは将来の自動車の形を考えて二輪車も審査対象になっています。プレゼンテーションや質疑応答を聞いたうえで市場への影響力や車両カラーデザインとしての優れた企画・発想を持っているか、デザインの企画や発想が他業種の手本になるかなどを基準に審査を行い、グランプリを決定します。審査を行うのはデザイン有識者やJAFCA自動車色彩分科会メーカー代表審査委員、事前登録した100人の一般審査委員です。

CMF」をテーマに、開発を担当した石田憲行さんがプレゼンテーションを行いました。「ゲーディンググリーン・メタリック」の塗装がニュートラルカラーでありながらも使う人の個性を表現できることが高い評価を受けました。石田さんは「開発の際はいかに人に伝わる色を出せるかに力を入れた」と当時の苦労を語りました。

■次世代タクシー

特別賞を受賞したトヨタは「日本の風景を変える、おもてなしの心から生まれた次世代タクシー」をテーマに、日本の伝統的な色とされる藍色の中で最も深い「コイアイ」のカラーを選びました。日本の街並みに溶け込み、日本らしさを表現できるポイントが評価につながったようです。

■人に寄り添う

ホンダは「人に寄り添う 軽バン



日産のオーラックシリーズは湘南の海や空をイメージした深い青で訴求



三輪車も展示され、興味を持つ人が多かった



足を止めてそれぞれの車両に見入る人たち



「SUZUKI」の青の歴史を表現したカラー「トリプルメタリック」



大きな存在感のある「ジムニーシエラ」



多くの展示車両が美術館前を彩った



参考出展としてスバルの車両も展示された



楽器をモチーフとした新しさも「SR400」の特徴

プレゼンの質疑応答

ホンダの石田憲行氏が語る

—今まではターゲットカスタマーを設定してそこに合う色をつくっていましたが、今回は逆のパターン。バンに対して固定観念を持つ人も多し中、どんなアプローチをしたのでしょうか(マツダ デザイン本部 岡村貴史さん)

「以前はターゲット層に対して色の持つ意味などを詳細に決めて提供していました。実際に「フリード」のブルーとイエローをつくった際は、きちんとした意味を持たせていました。しかし自分だけが色の持つ意味を知っていても、実際にユーザーがカラーデザインの持つ本当の意味に気づいてくれたかがわかりませんでした。一方今回はまったく逆の試みで、色を決めてからターゲットに訴求することになりましたが、アプローチに関してはただユーザーが『これは自分にぴったりな色だ』と思って選んでくれれば良い、という気持ちがあるだけです」

—N-VANのカラーラインアップは複数ありますが、そのなかでもこの色であれば趣味として購入を決める人も多いのでは…(ヤマハ発動機 デザイン本部 水谷玄さん)

「最初色数が絞られている中で『この色なら商用だけでなく趣味性が高いユーザーにも選ばれるかもしれない』という考えからこの色が追加されましたが、実際はどれくらいの方が趣味で購入しているのか正確な数字は分かりません。また、グリーンにイメージを持ってもらいたくなかったのであえて訴求色から外したのですが、『グリーンが一番使いやすい』と言ってくれるユーザーは一定数いるようです」



グランプリを受賞した石田憲行さん(左)と宮崎理事長

■未来や自然を想起させる

今回ノミネートされた車両について

そのほかヤマハ発動機「SR400」の経年劣化を生かしたエンブレムや、スズキ「ジムニー」の「質実冒險」をテーマとしたイエローとグリーンカラーデザインなど、魅力のあるデザインが評価されました。

て、審査員の多くが「公共性やサステナビリティを考えた色が多かったのが特徴」と分析しました。特にサステナビリティの観点からはブルーやグリーンなど、未来や自然を想起させる色がトレンドとなっています。「グリーンは今後大事になってくる」と話す審査員もおり、今後のカラーラインアップに多く登場するかもしれません。

第77回全国産業安全衛生大会 (10月17～19日)

◆自工会からは2つの研究会が発表

中央労働災害防止協会（中災防）主催「第77回（平成30年度）全国産業安全衛生大会」が10月17日～19日まで、横浜市で開催。今回のテーマは「安全・健康の決意新たに トップの率先 現場の改善」で、1日目に総合集会で労働安全衛生功績者の表彰と講演、2日目に製造業安全対策官民協議会による特別セッション、2、3日目には安全衛生に関連するテーマごとに約270題のプログラム（研究発表、講演等）が実施され、自工会からは安全衛生部会の2つの研究会が発表しました。

テーマ

安全衛生教育の充実 ～体感訓練～

自工会安全衛生部会Aグループ研究会委員
（三菱自動車工業 岡崎製作所管理部・
安全衛生担当マネジャー）
石川 雄一氏

「危険を危険と捉える感性」はどうすれば高めることができるのか。休業災害要因の過半を占める「うっかり不注意」による不安全行動を撲滅するため、五感を刺激し長く記憶に留まる体感訓練の有効性に着目。さらに研究会7社における危険体感訓練の事例を発表しました。

テーマ

300撲滅活動の一考察 ～意識編～ 安全意識はなぜ失われるのか

自工会安全衛生部会Bグループ研究会委員
（SUBARU人事部安全企画担当）
日野 貴透氏

自動車メーカーの製造現場では、作業経験3カ月未満の従業員の災害件数が非常に多く、その対応策は急務となっています。かれらの安全意識はなぜ失われるのか？作業経験の少ない従業員の災害を防ぐため、自動車メーカー7社が会社の垣根を超えて共同研究した結果事例を発表しました。



(大会プログラムから抜粋)

大型車の車輪脱落は許さない。

大型車に関わる私たちプロの使命です。



重大事故を未然に防ごう!

タイヤ・ホイールは、しっかり点検、正しく整備。



<p>1</p> <p>規定のトルクで 確実な締付けを</p>	<p>2</p> <p>50~100km 走行後はしっかり 増し締めを</p>	<p>3</p> <p>一日一回の 日常点検を</p> <p>とくに、気が付きにくい 左後輪は、重点的に点検を!</p>	<p>4</p> <p>ホイールに 適合した ボルト、ナットを</p>
-------------------------------------	---	--	---

車輪脱落を防ぐ4つのポイント

詳しい情報は日本自動車工業会ホームページへ

▶ http://www.jama.or.jp/user/fall_off_wheel/car/index.html

国土交通省 自動車点検整備推進協議会 大型車の車輪脱落事故防止対策に係る連絡会 日本自動車工業会(いすゞ自動車 日野自動車 三菱ふそうトラック・バス UDトラック) 全日本トラック協会 日本バス協会 全国自家用自動車協会 日本自動車整備振興会連合会 日本自動車販売協会連合会 全国タイヤ商工協同組合連合会 日本自動車タイヤ協会 全国石油商業組合連合会 日本自動車車体工業会 日本自動車輸入組合 日本自動車機械工具協会 日本自動車機械器具工業会 自動車用品小売業協会 日本自動車車体整備協同組合連合会





世界最大級！年に1度のカスタムカーの祭典

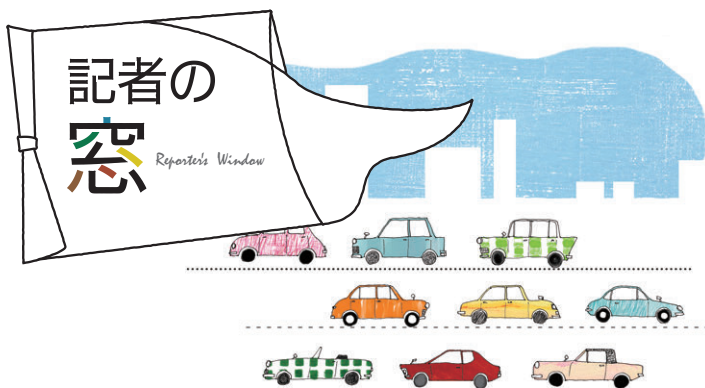
TOKYO AUTO SALON 2019

2019年1月11日(金)、12日(土)、13日(日) 幕張メッセにて開催

東京オートサロン実行委員会(東京都新宿区 株式会社サンズ内)は、2019年1月11日(金)、12日(土)、13日(日)の3日間、世界最大級のカスタムカーと関連製品の展示会「TOKYO AUTO SALON 2019」(www.tokyoautosalon.jp/)を幕張メッセ(千葉県美浜区中瀬2-1)で開催します。

「TOKYO AUTO SALON 2019」開催概要

名称	TOKYO AUTO SALON 2019 東京オートサロン2019 www.tokyoautosalon.jp				
会場	幕張メッセ 国際展示場ホール1~11、国際会議場、幕張イベントホール、屋外展示場 (株式会社幕張メッセ:千葉県千葉市美浜区中瀬2-1 www.m-messe.co.jp)				
開催日程	1月11日(金) 9:00~19:00(業界&報道関係者招待日) 14:00~19:00(一般特別公開) 1月12日(土) 9:00~19:00(一般公開日) 1月13日(日) 9:00~18:00(一般公開日)				
主催	東京オートサロン実行委員会				
運営	東京オートサロン事務局(TASA)				
後援(予定)	千葉県、千葉市、一般社団法人 日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会(NAPAC)、 一般社団法人 日本自動車工業会(JAMA)、一般社団法人 日本自動車連盟(JAF)				
特別協力	幕張メッセ、株式会社三栄書房				
協力	ASEA事業部、JAWA事業部、JASMA				
入場料	※全日とも小学生以下無料(保護者同伴に限る)				
		日程	開催時間	前売り	当日
	特別入場	1月11日(金)	14:00 - 19:00	¥3,000	¥3,500
	一般入場	1月12日(土)	9:00 - 19:00	土曜日もしくは日曜日の1日限り有効	
1月13日(日)		9:00 - 18:00	¥2,000	¥2,500(大人) ¥1,800(中・高生)	



北海道新聞

はいはら みのる
拝原 稔

生活必需品か、贅沢品か……

⊙おじいちゃんは高級車、お父さんはミニバン、おばあちゃんとお母さんは小型車が軽自動車一。前任地の北海道東部の厚岸町では、車は文字通り生活必需品だ。1家に1台ならぬ、大人1人に1台が当たり前だった。

⊙全国ブランドのカキの産地で知られる厚岸の浜は豊かで、町民は買い物とあらば、真冬でも車を走らせ、350*も離れた札幌に行く。高速道路が通っているとはいえ、雪深い大雪山系を超える長距離ドライブになる。だから居住性が優れ、走行性能が高い四輪駆動車を買う。町内に足となる便利な公共交通機関がないから、買い物や通院用などの車も1人1台必要だ。北海道ならではの広い家に住んでいるので、駐車場の心配もない。

⊙人口減で町民が1万人を割り込んでも、街の一角には自動車会社のディーラーが軒を連ねる。これが都会の感覚では理解できない「超・車社会」の現実だ。

⊙厚岸から東京に転勤してきたのは昨年の4月。在京の後輩社員に聞くと「車は北海道を出てくる時に売りました。車がなくても暮らせるし、維持費がかさむじゃないですか」と言われてしまった。

⊙北海道では駐車場代が月数千円のケースもあるが、都内だと何万円もかかる。厚岸ではバスは1日4~5本だが、東京なら3分ごとに1本の路線すらある。都内は鉄道も張り巡らされ、電車を逃してもすぐ次が来る。北海道で車の便利さを実感していた同僚すら、自家用車を持つとは思えないのだから、東京の若者が「車は贅沢品」「必要な時に借りれ

ばいい」と考えるのも、無理はないのかもしれない。

⊙バブル期に育ち、大学卒業時はバブル崩壊で就職難に見舞われた「ロスジェネ世代」の私にとって、新車のオーナーになるのは大人になった証だった。

⊙入社1年目は車を買いたい一心で、渋々トイレ、バス共同の寮に入った。1年後にようやく手に入れたスバル「フォレスター」のターボ車に初めてエンジンをかけ、「ポポポポ」というエンジン音を聞いた瞬間を思い出すと、20年が過ぎた今でも涙が出そうになる。この愛車を18万*も走らせて北海道の隅々まで訪れ、東京出身ゆえ、ほとんど知らなかった各地の町名を一つずつ覚えていったのも懐かしい思い出だ。

⊙もうすぐ4歳になる長男にも「車好き」の血が流れているようだ。週末になると玄関で待ち伏せして「くるま、のる」「くるま、のりたい」とせがまれる。知らんぷりをしようものなら「くるま、くるま」と涙ながらに抗議してくるのだ。

⊙自動車業界の皆様は、今時の若者にどうしたら車に関心を持ってもらえるのか、頭を悩ませているのだろう。彼らの目を携帯ゲームから車に向けさせるには「車の運転は楽しい」「ドライバーになろう」といった、ありきたりの言葉では難しい。バーチャルの世界では味わえない、車やドライブの楽しさを説得力のあるメッセージで伝えるしかない。

⊙車は単なる生活必需品ではなく、ましてや贅沢品でもない。自分の人生を豊かにしてくれる、大切な相棒なのだ、と。……………



あなたの安全運転とクルマの先進安全装備は

＼ セットでどうぞ! ／



※ASV (Advanced Safety Vehicle) とは先進安全自動車のことです。

先進安全装備は、あなたの安全運転を支援するシステムです。
機能を正しく理解し、過信せず、安全運転を心がけましょう。



衝突被害軽減ブレーキ

クルマが障害物を感知して、警告やブレーキの補助動作を行います。



定速走行・車間距離制御装置

前方のクルマとの車間距離を保ちながら追従走行して運転をサポートします。



車線逸脱警報

車線をはみ出しそうになった時、警告音等で正しい位置に戻ることを促します。



後側方接近車両警報

死角になる斜め後方のクルマを検知し、危険を知らせます。



自動切替型前照灯

夜間走行時、対向車等の有無を検知しハイ/ロービームを自動で切り替えます。



ペダル踏み間違い時加速抑制装置

車両等の有無を検知し、誤ってアクセルを踏み込んだ際の急加速を防止します。



衝突被害軽減ブレーキ等を備えた「安全運転サポート車 (サポカー)」の普及・啓発に取り組んでいます。

JAMA 一般社団法人 日本自動車工業会
JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-30 日本自動車会館
[安全運転講座ページ] <http://www.anzen-untten.com>

